



市保健福祉総合センターの歩みを伝える陸高なでしこ会の紙芝居

## 市保健センターを紙芝居に

陸前高田の元推進員の会 85年開設から紹介

陸前高田市の元保健推進員でつくる陸高なでしこ会

(鈴木秋子代表)は、東日本大震災で被災して同市高田町の高台に昨年再建された市保健福祉総合センターを題材に、紙芝居を制作した。

絵や写真、新聞記事を交えた18枚。1985年増築

した旧市役所庁舎内に設置され、各種検診や健康教室の拠点となったセンター開設の経緯のほか、食生活改善推進員、保健師の経験者から聞き取った思い出を紹介する。地域包括支援センターと集約した新施設の概

要も説明している。

19日には同市矢作町で開かれた講演会の会場で住民に披露した。紙芝居を監修した石木幹人所長は「高齢化率が高まる中、長く健康でいるためのアイデアを出すのがセンターの役割。どんどん意見を出してほしい」と呼び掛けた。

同会は2016年から紙芝居で減塩や口腔ケアなど健康づくりを呼び掛けている。鈴木代表(71)は「震災前の記憶が薄れてきた中で、自分たちも歴史を学び直す良い機会になった」と語る。